

S・M・C

Shizuoka Medical Communication

講演会

『患者の想いのサインを見逃していませんか？』

～ありがちミスを乗り越えてプロフェッショナルな
コミュニケーションを目指そう！～

講師 岐阜大学医学部医学教育開発研究センター教授 藤崎和彦先生
平成18年11月18日(土)

毎年恒例となった静岡医療コミュニケーション研究会主催の講演会が、静岡市産学交流センターで開催されました。今回は、藤崎先生を迎えてのご講演と医療面談のデモンストレーションを交えた内容でした。先生は、医療者側に対するコミュニケーション教育をご専門に活動されています。当日私は、模擬患者として参加させていただきました。

先生は「医療現場のコミュニケーションは、患者-医療者間の双方向の交流。だから、診療の場における患者の反応の半分は、医療者の責任。」と熱く語られました。

つまり、もう一方の患者にも、医療者側へより分かりやすい伝え方をする責任があることに気づかされました。医療者も患者も、様々な感情や価値観を持っています。互いを認め合おうとする歩み寄りの視点から、目指すべきコミュニケーションの姿が今後の医療への希望と共に見えてきました。

“3分間診療”などの言葉に代表されるように、短い時間の中で意思疎通を行わなければならない難しい現状があります。しかし、今回の講演会を通じて、実生活における患者の立場として、納得できる医療サービスを受けられる可能性が感じられる好機にもなりました。

(中村)

講演では、①患者サイドに立つコミュニケーションは日頃からのトレーニングが必要。自分の評価は人のデモを見て行ない、自分の課題を見つけ実行する。②医療者に求められる面接技能は、患者と医療者間の相互行為であり、共同行為である。③医療コミュニケーションは、日常のものとは違い難しい。患者の感情を拾いそして伝え返す。受け止めた感情の確認が大切。などのお話がありました。

講義後、私は看護師役で模擬面談をしました。講演中の「感情の伝え返し」に共感した私は、そのことばかりを考えていた結果、患者さんの気持ちや感情の確認が不十分なまま、勝手に患者さんの感情を私の中で作り上げ、解決を急いでしまいました。私達医療者は、向かい合った患者さんが苦しんでいればいるほど、なんとかかしたいという本能が湧き上がります。援助職としてとても大切な本能ですが、主役はあくまで患者さん。答えは「その人の中にある」です。振り返って、気を引き締め直した気分です。

(根岸)



OSCEへの参加

OSCE (Objective Structured Clinical Examination, 客観的臨床能力試験, 通称オスキー)

とは、臨床能力(臨床実技)を客観的に評価するために開発された評価方法です。

浜松医大のOSCEに参加して

早いもので、私が浜松医大のOSCEの模擬患者をさせていただき6年になります。この間で大きく変わった事は、試験時間が最初は4分だったのが現在は10分となり、コミュニケーションの意識が向上していることです。当初は、全く視線を合わせる事無く終了した人もいた事を思い出します。

最近は大学側も、学生の方々も熱心で、合宿等を行い、学習及び練習を繰り返していると聞きました。その成果からか、共感の言葉やおうむ返し等の、患者としては有難い技術を身につけている方もいます。欲を言えば、もう少し患者の話を聴く、聞き出す事が出来れば10分という限られた時間でも、満足感が生まれるのではないのでしょうか。

“これからの医療を担う若い医師が、患者の話を真剣に聴ける”このようなコミュニケーションが図れるようにお手伝いをさせていただき、私たちも大変刺激となり勉強になっています。自分たちの為にも出来る限り、OSCEでの模擬患者を続けて行きたいと思います。(山田)

初めてOSCEに参加して

浜松医大にて行なわれたOSCEに模擬患者として初めて参加させていただきました。しかも、実際の年齢と15歳近く離れた役を演じました。患者設定をしていく上で、自分と同年齢の子供がいたり、経験のない仕事をしていたり、今の自分からは想像が出来ない設定が多数含まれている為、決められた受け答えを覚えるのが大変でした。

始まるまでの間はとても緊張しましたが、実際に始まって一つ目の質問に答えてしまうと、自分が自分ではないように、設定された患者に

なったような感覚に陥りました。しかし、見かけの年齢とかなり違う為、試験を受けていた学生がとても戸惑っているのを感じ、なんとなく申し訳ない気分になりました。

今になって考えると、同じ患者を演じた皆さんと同様に、自分が行なった数名の学生に平等に、標準的な患者を演じられたのかとても不安な気分になりますが、今後も、頑張っていきたいと思っています。(上原)

薬学部のOSCEに参加して

平成19年2月28日、静岡県立大学で行なわれたOSCEミニトライアルに、患者対応(初回インタビュー)と情報提供(薬局での服薬指導)の模擬患者として参加しました。患者対応では教室の中を薬局と想定して、院外処方せんを持って来局するところから始め、処方せん受付、薬歴アンケート記入の依頼、アンケートの記入事項の確認と追加インタビュー、受付終了までの過程です。このようなOSCEは大学としても初めてのことで、学生も私も大勢の見学者に囲まれてとても緊張しました。薬学部が6年制となり、期待される職務を果たすためには、高度な技術が求められる時代となりました。その中で、よりよいコミュニケーションを実現させるためのお手伝い出来るということは、大変意味深いことであり、これからの医療現場に希望がわいてきます。言葉でしか伝えられない重要な情報を患者にわかりやすく説明する技術は、繰り返し練習することで身に付くことでしょう。(扇)



出番を待つ模擬患者たち

学会発表してきました！

～～第16回日本医療薬学会（金沢）

平成18年9月30日～10月1日～～

薬剤師が研究発表を行なう大きな学会の一つである日本医療薬学会で私たちの日頃の活動を今年も発表してきました。私は、医療コミュニケーション研修に参加した延べ354名の薬学生と延べ131名の薬剤師に行ったアンケートをまとめ、『薬学生及び実務薬剤師への模擬患者を使用した医療コミュニケーション研修の実施とその評価』と題してポスター発表しました。約90%の学生がコミュニケーションの技術は必要であり、授業として取り上げることが希望しています。また、実務薬剤師の98%が、医療コミュニケーション研修が今後の業務に役立つと感じています。これからの薬学教育では、医療倫理やコミュニケーションスキルなども授業として取り上げられていくことでしょう。その中で、私たちも模擬患者として実習のお手伝いができれば光栄です。また、コミュニケーション教育を受けていない薬剤師を対象に研修を行なう意義は大きく、教育目的に沿った模擬患者の養成とシナリオの作成など、私たちも意欲的に活動していこうと考えています。（鈴木）



私たちは「模擬患者を使用したCRC（治験コーディネーター）のためのコミュニケーション・スキル演習における到達度評価について」という演題でポスター発表しました。治験では参加する被験者に対して十分に説明し、納得同意を得るインフォームド・コンセントが必要不可欠です。そこで、模擬患者を第2相試験の模擬被験者としてCRCと対応させ、CRCのコミュニケーション・スキルを模擬患者と教員それぞれの視点から評価しました。両者の評価を比較することでロールプレイを多角的に捉える

ことができました。

このような研修にも模擬患者を利用できることがわかり、模擬患者の有用性をあらためて実感しました。またポスター討論ではこのような試みについての質問も多く出され、模擬被験者のシナリオも増やす必要を感じました。（森田）

～～第6回CRCと臨床試験のあり方を

考える会議（大宮）平成18年10月7～8日～～

臨床試験受託事業協会は、平成18年5月26日に開催した中級実務者講習会に参加した50名の治験従事者に対して、模擬被験者を使ったロールプレイに関するアンケート調査を行ないました。私たちはその結果をまとめ、「模擬被験者を用いたインフォームド・コンセントの実践におけるアンケート調査」という演題でポスター発表を行いました。

講習会の参加者の職種はCRC、治験管理者、事務職、SMO教育担当者など様々でしたが、84%の人から「今後の仕事に役立つ」という回答を得ることができました。また、ほとんどの参加者がコミュニケーションの大切さについて気づく機会になったと評価してくれたこともあり、同様の講習会への参加については90%の人が「また参加したい」と答えていました。このことから模擬患者を使ったロールプレイは、インフォームド・コンセントが大切となる治験の分野でも重要であることを認識するとともに、多様な場面に対応できる模擬被験者の養成の必要性も感じました。（森田）



SMO（Site Management Organization 治験施設支援機関）とは、治験に係る業務の一部を委託する組織で、治験の品質の向上、医薬品の開発期間の短縮に貢献しています。

平成18年度私たちの活動

月 日	活 動 内 容
平成18年 4月16日	平成18年度総会
4月27日	病院・薬局実務実習導入講義への講師・SP派遣（静岡県立大学薬学部）
5月11日	医療者向け模擬患者セミナーへのファシリテーター・SP派遣（沼津市立病院）
5月19日	臨床協中級実務者講習会への講師・SP派遣（メテカルフレンド社）
7月1日	新人看護職員接遇研修へのSP派遣（富士宮市立病院）
7月8・9日	LPC国際フォーラム2006へ参加
8月2日	医師及び看護師向け研修会へのファシリテーター・SP派遣（静岡県立総合病院）
8月26・27日	医学教育セミナーとワークショップへ参加（岐阜大学医学部）
9月16日	医師研修会へのSP派遣（藤枝市立総合病院）
9月29・30日	第16回日本医療薬学会ポスター発表 2題（金沢）
10月7日	医師研修会へのSP派遣（藤枝市立総合病院）
10月7・8日	CRCと臨床試験のあり方を考える会議ポスター発表 1題（大宮）
10月18日	治験特論への講師・SP派遣（静岡県立大学薬学部）
10月19日	SP研究会向けの講師・SP派遣（城西国際大学薬学部）
10月29日	市民公開講座「ジェネリック医薬品の上手な相談」へのSP派遣（静岡医療センター）
11月18日	講演会開催（講師 岐阜大学 藤崎先生）
11月19日	SP研修会（講師 岐阜大学 藤崎先生）
11月21日	保険薬局薬剤師研修会への講師・SP派遣（島田市薬剤師会）
11月25日	医師研修会へのSP派遣（藤枝市立総合病院）
12月5日	CRC研修会へのSP派遣（浜松医科大学附属病院）
12月12日	「薬学教育におけるOSCE」への講師派遣（明治薬科大学）
12月19日	SPによるコミュニケーショントレーニングへのSP派遣（静岡医療センター看護学校）
平成19年 2月6日	CRC研修会へのSP派遣（浜松医科大学附属病院）
2月10日	新人看護職員研修会へのSP派遣（富士宮市立病院）
2月28日	静岡県立大学薬学部OSCEミニトライアルへのSP派遣
3月3日	浜松医科大学OSCEへのSP派遣

SP 模擬患者 (Simulated Patient)

その他 月1回の定例会を行なっています。

この会に興味のある方は下記事務所までご連絡ください

発行

静岡医療コミュニケーション研究会事務所 代表 森田 みつ子

〒420-0882 静岡市葵区安東 1-22-25 TEL・FAX 054-248-0348

E-mail mrmmtk2000@hotmail.com

静岡医療コミュニケーション研究会HP <http://www.smc-jp.com/>